

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

団体名	特定非営利活動法人教育活動総合サポートセンター
------------	-------------------------

取組の名称	「こどもサポート宮ノ下」学習支援事業
実施場所	特定非営利活動法人教育活動総合サポートセンター 川崎市高津区下作延 5 丁目 11 番 8 号
対象地域	川崎市内
対象地域の 特色・課題	川崎市内の各学校では、校内はもとより、家庭や地域の各団体、教育委員会などの関係諸機関と連携をとりながら、様々な要因で不登校になっている児童・生徒に対し、登校支援や学習支援に努めている。しかし、まだまだ十分な成果を上げているとはいえない状況である。児童生徒の思いに寄り添い、安心して過ごせる居場所づくりや、きめ細やかな教育相談、学習支援の場、機会が求められていると考える。
取組の趣旨・目的	当サポートセンターは、「子たちに力を」を合い言葉に、平成16年度から、学校、家庭、地域および関係諸機関と連携しながら青少年の自立・健全育成を支援することにより、明るく豊かな社会の実現に寄与することを目的としている。 「こどもサポート宮ノ下」では、不登校やいじめ、特別な支援を必要とする子どもや保護者に対する教育相談や学習支援を行っている。人の関わりを大切にしたい一対一の学習支援や教育相談の継続により、子どもや保護者の不安に寄り添い、子どもの居場所づくりとともに、自立や社会参加のための支援活動を行っている。

<p>実施内容・実施スケジュール</p>	<p>○学習支援・教育相談等に関すること 教育相談 延べ 682件 学習支援 登録 小学生33名 中学生68名 高校生18名 学習利用者数 1992名 開室日数236日 学習支援担当者 40名(含 相談担当 8名)</p> <p>○支援を必要とする保護者の会に関すること 年間3回実施 参加保護者数①7/17 14名 ②10/16 23名 ③1/21 20名</p> <p>○サイエンスキッズに関すること(全10回予定) 活動日 1/15～2/12 9回実施 延べ参加人数 小学生 68名 保護者 27名</p> <p>○ふれあい体験活動 11/5(土)13:30～15:30 「つくってたのしもう」 講師 元サポートセンター所員 参加者:子ども5名 保護者5名 会場:サポートセンター宮ノ下</p>		
<p>参加者の年代</p>	<p>小学生・中学生・ 高校生とその保護者</p>	<p>定員 (1回あたり)</p>	<p>学習支援 8名程度 ※同時時間帯に学習する 子どもの人数の目安</p>
<p>実施頻度</p>	<p>学習 週5日実施 子ども1人あたり 週2回程度 相談 週5日実施 (随時受付)</p>	<p>活動日数 (年間)</p>	<p>236日</p>
<p>スタッフ体制</p>	<p>スタッフ;当サポートセンター所員 (川崎市内公立学校退職教職員および当サポートセンター 設立の趣旨に賛同する市民)</p> <p>体制;電話等での申込みに8名の相談担当が交代で教育相談を実施。子ども、保護者との面接後、学習支援を希望する小・中学生に対して、1対1対応で希望する教科の学習支援を実施。(高校生についても可能な限り学習支援を実施。)学習支援は相談担当も含め40名程度の学習支援担当登録者が行う。</p>		

<p>連携する団体・ 連携の手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・川崎市立学校との連携 子ども・保護者の承諾を経て、在籍校に毎月出席状況報告書を送り、児童・生徒についての情報を共有し、支援の充実を図る。また、随時、学校との連絡や情報交換により、児童・生徒の支援につなげている。(必要に応じて市外の学校・私立学校とも連携) ・川崎市総合教育センター・教育委員会との連携 必要に応じて情報提供や情報交換を行い支援の充実を図っている。 ・区役所等公的機関 各区地域見守り担当、SSW、教育相談員、児童相談所などとの連携により児童・生徒への支援を行っている。 ・「サイエンスキッズ」は東京応化科学技術振興財団と連携して実施。 ・その他、公益財団法人生涯学習財団（キッズセミナー協力）大山ふるさと館（子ども探検クラブ実施）とも連携して活動を実施している。
<p>取組実施により 見込まれた効果</p>	<p>最近の文部科学省・川崎市等の調査でも不登校児童・生徒の数はますます増加している。コロナ禍の影響もあり、様々な不登校の形態や児童生徒や保護者の不安感が生まれており、相談件数も増えている。</p> <p>当サポートセンターでは、子どもや保護者の声を聞き、不安に寄り添い、個々の子どもに適した支援を行うとともに、保護者、学校、関係諸機関との連携を図り、一人一人の子どもに合う学びの場や環境づくりをしていきたい。このような取り組みが、子どもの学びの保障や社会的自立につながることを願っている。</p>